

そうぞうしたことを音読であらわそう 「ニャーゴ」

日 時 令和3年9月30日（木）公開授業②
児 童 男子11名 女子6名 計17名
指導者 大下 亮人

1 単元の構想

<児童の実態>

- ・文や語のまとまりに気を付けながら、聞き手に合わせた声の大きさを音読することを経験している。
- ・時、場所、人物を手がかりに場面を分けることができる。
- ・登場人物の行動などを基に、内容の大体を捉える学習を行っている。

<単元について>

◎「ニャーゴ」（東京書籍 新しい国語 二上）

本単元は、「読み深める」ことについて学習する系統の単元として位置付けられている。

本教材は、中心人物である猫が、子ねずみたちとの交流によって、子ねずみたちを食べることを諦める物語である。登場人物の会話文が多いため、様子や行動、その理由について想像を広げながら読むことに適した教材であると言える。教材文中には、題名にもなっている「ニャーゴ」という言葉が3回出てくる。そのときそのときの「ニャーゴ」の言葉の意味や、猫の表情、口調、様子を具体的に想像することで、それらを音読で表現することができると思う。

本単元の学習を通して、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力を養うことを目指す。

付けたい力

想像を広げて読む力

単元に位置付ける言語活動

登場人物の表情や口調、様子について具体的に想像し、音読で表現する。

2 研究の柱にかかわって

研究の柱2 ①思考の共有・可視化を図った学習活動

本単元では、登場人物の表情や口調、様子について具体的に想像し、音読で表現する言語活動を行う。中心人物である猫が、何をしたのか、その時どのような表情、口調、様子だったのか、なぜそのような行動をとったのかについて考えることは、登場人物の行動を具体的に想像することにつながる。そのため本単元では、表情や口調、様子について具体的に考えることができるようなワークシートを用いる。ワークシートには、猫の顔の絵、その表情の理由、様子、音読するときの声の大きさ、話す速さ、声の高さを書く。それを場面ごとに毎時間用いることによって、子どもたちが学習の見通しをもちながら、自分の読みを可視化することができるようにしていきたい。そして、互いの読みや想像したこと、音読の仕方を交流し、中心人物の行動について読み深めることができるようにしていきたい。

研究の柱2 ②学び合いにおける思考活動

本単元では、研究の柱2②に示された思考活動のうち、主に次の思考活動を位置付ける。

- ・場面の様子と登場人物の行動を結び付けて読み取り、行動の理由を想像する際の根拠を明らかにする。【理由付ける】【関係付ける】
- ・人物について想像する際、自分と友達の考えの似ている点や異なる点について考える。【比較する】

3 単元の学習計画

(1) 単元の指導目標

- ①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能〕(1)ク
- ②場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ
- ③場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- ④言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。
「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	①積極的に、場面の様子や猫の表情、口調、様子について具体的に想像し、学習課題に沿って、声や動きで表現しようとしている。

(3) 単元の指導と評価の計画(12時間)

時	主な学習活動	指導の手立て	評価規準(評価方法)
1 2 3	○「ニャーゴ」を読み課題をつかむ。 ・教師の範読を聞き、初発の感想をノートに書き、交流する。 ・「ことばの力」を確認し、学習課題をつかむ。 ○学習計画を立てる。 ・単元を通した学習計画を立てる。 ・分からない言葉や新出漢字の確認をする。 ○場面分けをする。 ・時、場所、人物に着目して、「ニャーゴ」を5つの場面に分ける。	・登場人物の行動や、その理由を具体的に想像し、表情や口調、様子を考えながら音読で表現するという学習の課題とゴールを全体で共有する。 ・一人一人がノートに書いた初発の感想を把握し、各場面の内容を捉える際に生かせるようにする。 ・既習の「名前を見てちょうだい」の学習を生かし、時、場所、人物に着目することで、場面分けができることを確認する。	
4 5 6	○各場面の内容の大体を捉える。 ・第一・二場面の内容の大体を捉える。 ・第三場面の内容の大体を捉える。 ・第四・五場面の内容の大体を捉える。	・内容の大体を捉えられるように、各場面で誰が、どうして、どうなったかを繰り返し確認する。 ・各場面において言葉の意味を正確に捉えられるように、必要に応じて動作化するように促す。	【思・判・表①】 各場面の猫や子ねずみたちの行動や会話を手掛かりにしながら、物語のたまかな内容について理解しているか確認する。(ワークシート・発言)

7 8 9 本時 10	○各場面での猫の表情や口調, 様子について具体的に想像し, 音読で表現する。 ・第一・二場面の猫の表情や口調, 様子について具体的に想像し, 音読で表現する。 ・第三場面の猫の表情や口調, 様子について具体的に想像し, 音読で表現する。 ・第四場面の猫の表情や口調, 様子について具体的に想像し, 音読で表現する。 ・第五場面の猫の表情や口調, 様子について具体的に想像し, 音読で表現する。	・登場人物の表情や口調, 様子, その理由について具体的に想像することができるように, 教科書の本文を繰り返し見るように促したり, 視点を絞って読めるように, 範囲を限定して読むように促したりする。 ・各場面の内容を正しく捉えた上で, 登場人物の行動や会話, その理由について具体的に想像できるように, 前時までに読み取った内容を壁面に掲示し, 必要に応じて振り返ることができるようにする。 ・3人を基本としたグループで役割を決め, 登場人物について想像したことを音読で表現し, 交流する。	【思・判・表②】 各場面の猫の表情や口調, 様子について具体的に想像しながら, 声の大きさや高さ, 読む速さについて考え, 音読で表現しているか確認する。(音読・発言・ワークシート) 【主体的①】 積極的に, 場面の様子や猫の表情, 口調, 様子について具体的に想像し, 学習課題に沿って, 声や動きで表現しようとしているか確認する。(音読・発言・ワークシート) 【知・技①】 語や文のまとまり, 言葉の響きなどに気を付けながら音読しているか確認する。(音読)
11 12	○音読発表会に向けて練習する。 ○音読発表会を行う。 ・3人グループを作り, グループごとに1つの場面を選び, 役割を決めて, 全体に向けて音読発表をする。 ○単元の学習の振り返りをする。	・登場人物の行動やその理由について想像した事を表現できるように, ノートやワークシートを確認するように促す。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読むことができるように, 音読の観点を壁に掲示し, 参考にできるようにする。 ・学んだことを今後の学習に生かせるように助言する。	

4 本時の指導（9 時間目／全 12 時間）

（１）目標

猫が子ねずみたちを食べることを止めた理由について具体的に想像することができる。

（２）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（・） 評価
つかむ 3分	1 第四場面を全員で音読し、内容の大体を確認する。 2 本時の課題を確認する。 第四場面の猫の行動の理由を想像し、音読に生かそう。	- 音読をする前に、第四場面ではどのような出来事があったのか確認しながら読むように促す。 - 学習した第四場面の出来事について確認しながら、内容の大体を黒板に掲示していく。 - 猫が、今まで子ねずみたちを食べることを我慢してきたことと、第四場面の終わりの食べることを止めてため息をついたことを確認する。
かんがえる ・あらわす 37分	3 登場人物の表情や口調、様子、その理由について想像を広げる。 （１）2 回目の「ニャーゴ」の意味とその理由を確認し、音読での表現の仕方を考え、ワークシートに記入する。 <ニャーゴの意味> ・今度こそ絶対に食べてやる。 ・さっきより怖くして驚かせてやる。 <想像した理由> ・今までずっと食べるのを我慢してきたから。 ・最初からずっと子ねずみたちを食べる気でいたから。 <音読の仕方> 声の大きさ、話す速さ、声の高さに分けて考える。 （２）子ねずみたちは「ニャーゴ」をどのような意味で捉えていたのか確認する。 <ニャーゴの意味> ・こんにちは ・さよなら <想像を広げる部分> ・子ねずみたちは「ニャーゴ」を挨拶だと勘違いしている。 4 教科書 130 ページ5 行目から、131 ページの4 行目までを全体で2 回音読する。 5 猫の表情や口調、様子、その理由について想像を広げる。 （１）第四場面の始めでは猫が子ねずみたちを食べようとしていたが、第四場面の終わりでは食べることを止めた様子へ変化したことを捉える。	- 前時までに学習した二回目の「ニャーゴ」の意味や猫が子ねずみたちを食べようとしていることについて、壁の掲示を使って確認できるようにする。 - 猫の表情や口調、様子について想像したことと、そこから考えた音読の仕方を分けて板書することで、音読する際の参考にできるようにする。 - 音読の仕方については、それぞれの観点を数値で表せるようにし、自分の想像したことを視覚化できるようにする。 - 前時までに学習した子ねずみたちの「ニャーゴ」の意味について、壁の掲示を使って確認できるようにする。 - 猫と子ねずみたちの「ニャーゴ」という言葉の、意味のずれを黒板で視覚化して表す。 - 猫と子ねずみの「ニャーゴ」の読み方の違いを捉えるために、猫と子ねずみたちのそれぞれの役割で1 回ずつ音読し、どちらの読み方も経験できるようにする。 - 第四場面の始めと終わりで猫の様子が変化していることを捉えられるように、猫が「ニャーゴ」と子ねずみたちに向かって叫んだ時と、「うん。」と大きなため息をついた時のことを、時系列に沿って板書で表す。

	(2)猫が子ネズミたちを食べることを止めた理由を想像し、音読で表現する際の工夫を考え、全体で交流する。 <食べることを止めた理由> ・ずっと子ねずみたちを食べようと思っていたけれど、優しくされたことで猫の気持ちも優しくなったから食べることをやめた気持ち。 ・子ねずみたちの優しさを感じ、自分がずっと子ねずみたちを食べようとしていたことを恥ずかしく思い困った気持ち。 ・自分の子どもと子ねずみたちを重ね、かわいそうになり、食べることを諦めた気持ち。 <音読の仕方> 声の大きさ、話す速さ、声の高さに	・猫が子ねずみたちを食べることを止めた様子を捉えられるように、猫が子ねずみたちを食べようとしている気持ちを可視化できる教具を黒板に掲示する。 ・想像したことや、表現の工夫の違いに気付くことができるように、声の大きさ、読む速さ、声の高さについて、項目ごとに分けて考えてワークシートに記入できるようにする。 ・想像をする際には、教科書の文章をもとにして考えられるように、想像したことや表現の工夫に関して考えたことの理由について、根拠を問い返し、教科書の本文に注目できるようにする。 【思・判・表①】 猫が子ねずみたちを食べることを止めた理由について具体的に想像している。 (ワークシート、観察、発言)
	6 グループで役割を決め、第四場面を一斉に音読する。	・あらかじめ決めている3人グループで、役割を決めて音読するように声掛けをする。 ・ワークシートに考えた表現の工夫を参考にできるように、音読をする前に確認を行う。
ふりかえる5分	7 本時の学習を振り返る。 ・できるようになったこと ・難しいと感じたこと ・これからの学習に生かしてみたいこと	・本時で学習したことを確かめ、次時は第五場面の読み取りをすることを伝え、意欲を高める。

(3) 評価

おおむね満足できる	努力を要する児童への支援
猫が子ねずみたちを食べることを止めた理由について具体的に想像することができる。	板書を参考にし、猫が子ねずみを食べようとする様子が変わっていることを確かめながら、猫が子ねずみたちを食べることを止めた理由を具体的に想像できるように支援する。